

議題 1 資料①

令和5年度消防費歳出予算（案）の概要について

(単位：千円)

区分	令和5年度予算額	令和4年度予算額	比較
消 防 費	952,242	846,480	105,762
01 常備消防費	774,111	784,493	△ 10,382
一般職人件費	705,107	671,440	33,667
消防事務費	5,387	5,247	140
消防・救急活動費	27,935	76,672	△ 48,737
職員研修費	4,664	5,277	△ 613
消防庁舎管理費	20,245	16,490	3,755
消防車両管理費	10,773	9,367	1,406
02 非常備消防費	19,648	15,907	3,741
消防団員活動費	18,246	14,618	3,628
消防団施設管理費	374	373	1
消防団車両管理費	1,028	916	112
03 消防施設費	66,348	14,664	51,684
消火栓等維持管理費	5,849	5,824	25
消火栓等整備事業	10,515	8,840	1,675
災害救助用資機材 搬送車整備事業	26,495	—	26,495
消防ポンプ 自動車整備事業	23,489	—	23,489
04 水防費 (主管課 道路公園課)	705	705	0
05 災害対策費 (主管課 安全安心推進課)	91,430	30,711	60,719
一般会計歳出合計	27,630,000	27,880,000	▲ 250,000
消防費の割合	3.45%	3.04%	0.41%

(単位：千円)

3 年度	消防費合計の当初予算額	838,906	=	消防費の割合
	一般会計歳出合計の当初予算額	27,730,000		3.03%
2 年度	消防費合計の当初予算額	1,299,825	=	消防費の割合
	一般会計歳出合計の当初予算額	25,980,000		5.00%

主な増減理由等

01 常備消防費

- ・ 消防・救急活動費 48,737,000円減額
令和4年度
消防緊急通信システム借上料 当初予算額 36,013,000円
庁用器具（エアーテント一式） 当初予算額 7,249,000円
令和5年度
庁用器具（バスケットストレッチャー） 当初予算額 594,000円
（救命用ボート2艇） 当初予算額 1,364,000円

- ・ 消防庁舎管理費 3,755,000円増額
令和5年度
本部庁舎トイレ洋式化修繕料 当初予算額 2,640,000円
本部庁舎揚水ポンプ・制御盤取替修繕料 当初予算額 2,167,000円

03 消防施設費

- 51,684,000円増額
- ・ 災害救助用資機材搬送車整備事業 当初予算額 26,495,000円
 - ・ 消防ポンプ自動車整備事業 当初予算額 23,489,000円

議題 1 資料②

令和5年度主な消防歳出予算（案）について

1 常備消防費（消防・救急活動費）

事業概要	予算額(円)
備品購入費 ①熱画像直視装置	198,000
②バスケットストレッチャー	594,000
③救命用ボート2艇	1,364,000

① 熱画像直視装置



火災時において、濃煙により視界不良の状況においても、熱画像直視装置を使用することにより屋内進入時の視界が確保でき、より安全な活動ができるほか、残火処理時等も火源（熱源）の発見が容易になり、効率的な活動をすることができる。

② バスケットストレッチャー



救助現場等において、要救助者を安全に救出・搬送できるように、周囲が囲われているストレッチャー。

チタン製で軽量かつ分離型とすることにより、収納や搬送が容易な構造となっている。

③ 救命用ボート2艇



水害救助支援ボート
セーフティボートSB290

台風や局地的豪雨等による市街地浸水などで孤立した人の救助活動に活用できるボート。

2 常備消防費（消防庁舎管理費）

事業概要	予算額(円)
需用費 ①本部庁舎トイレ洋式化修繕	2,640,000
②本部庁舎揚水ポンプ・制御盤取替修繕	2,167,000

①本部庁舎トイレ洋式化修繕

感染症対策に加え、子供からお年寄りも含めた来庁者の利便性も考慮し、また、通信指令室の3階移設に伴い、指令室勤務職員の仮眠室なども3階へ移設されることから、消防庁舎の和式トイレ(男子トイレ5か所、女子トイレ2か所)を全て洋式化する。

※「緊急防災・減災事業債」対象事業

②本部庁舎揚水ポンプ・制御盤取替修繕

昭和57年の消防庁舎建設時より使用する上水道を高架水槽へ送るためのポンプ2台の修繕をおこなう。

3 非常備消防費（消防団員活動費）

事業概要	予算額(円)
①報酬 消防団員報酬(年額報酬・出動報酬・操法大会関連)	9,682,000
②備品購入費 消防操法大会用資機材	719,000

①消防団員報酬（年額報酬・出動報酬・操法大会関連）

団員の年額報酬と出動報酬に加えて、令和6年度出場予定の消防操法大会の訓練活動にかかる報酬を計上する。

②消防操法大会用資機材

令和6年度に開催される操法大会に必要なホース、管そうなどの資機材を整備する。



4 消防施設費（消火栓等維持管理費）

事業概要	予算額(円)
負担金補助及び交付金 消火栓補強修理	5,003,000

設置から20年を経過した消火栓40か所の補強修理を行うための経費を計上しています。

※蕨市内には約600か所の消火栓があります。



5 消防施設費（消防車両整備事業費）

事業概要	予算額(円)
備品購入費 ①災害救助用資機材搬送車整備事業	26,495,000
②消防ポンプ自動車整備事業	23,489,000

①災害救助用資機材搬送車整備事業



第2出動火災などにおいて、空気ボンベなどの資機材を災害現場に搬送するほか、水害時においてボートを搬送するなど、後方支援体制を強化するために、指令1(乗用車)をトラック型の車両に更新する。

②消防ポンプ自動車整備事業



老朽化が認められる消防団第3分団の車両を更新する。なお、機関員不足が懸念されていることから、普通運転免許で運転できる車両総重量3.5トン未満の車両を導入する。

令和4年中の火災・救急の概要について

1 火災について

① 年別火災状況

年 別	火 災 件 数								焼 損 床 面 積 (㎡)	死 者	負 傷 者	
	合 計	火 災 種 別						車 両				そ の 他
		火 元 建 物										
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
令和4年	17	12	1	2	3	6	0	5	150.2	0	8	
令和3年	10	8	0	0	2	6	0	2	11.6	0	1	
前 年 比	7	4	1	2	1	0	0	3	138.6	0	7	

※焼損床面積については、調査中のものがあるため、今後数値に変更があります。

② 火災原因

年 別	たばこの不始末	コンロ	電灯・電話線等の配線	ストーブ	たき火	放火	放火の疑い	火遊び	その他	不明・調査中	合 計
令和4年	2	2	0	1	0	4	3	0	2	3	17
令和3年	3	2	0	0	0	1	1	0	3	0	10
前 年 比	-1	0	0	1	0	3	2	0	-1	3	7

③ 地区別火災件数

年 別	錦町	北町	中央	南町	塚越	合計
令和4年	3	3	3	2	6	17
令和3年	1	0	3	3	3	10
前 年 比	2	3	0	-1	3	7

議題 2 資料②

2 救急について

令和4年中 救急統計

救急出動件数及び搬送人員

	出動件数	搬送人員
令和4年	4,514件	3,573人
令和3年	3,860件	3,266人
増減数	654件	307人
増減比	16.9%	9.3%

事故種別別 救急出動状況（出動割合及び搬送割合）

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	医師搬送	資材搬送	その他
出動件数	4,514	44	0	0	207	30	17	709	37	34	3,233	138	0	0	65
出動割合	100%	1.0%	0.0%	0.0%	4.6%	0.7%	0.4%	15.7%	0.8%	0.8%	71.6%	3.1%	0.0%	0.0%	1.4%
搬送人員	3,573	7	0	0	183	28	17	639	20	25	2,516	138			
搬送割合	100%	0.2%	0.0%	0.0%	5.1%	0.8%	0.5%	17.9%	0.6%	0.7%	70.4%	3.9%			

事故種別別 出動件数及び前年比（件）

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	医師搬送	資材搬送	その他
令和4年	4,514	44	0	0	207	30	17	709	37	34	3,233	138	0	0	65
令和3年	3,860	16	1	0	186	27	12	638	66	49	2,688	123	0	0	54
増減数	654	28	0	0	21	3	5	71	-29	-15	545	15	0	0	11
増減比	16.9%	175.0%	0.0%	0.0%	11.3%	11.1%	41.7%	11.1%	-43.9%	-30.6%	20.3%	12.2%	0.0%	0.0%	20.4%

事故種別別 搬送人員及び前年比（人）

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他
令和4年	3,573	7	0	0	183	28	17	639	20	25	2,516	138
令和3年	3,266	1	1	0	165	27	12	589	33	28	2,285	125
増減数	307	6	0	0	18	1	5	50	-13	-3	231	13
増減比	9.4%	600.0%	0.0%	0.0%	10.9%	3.7%	41.7%	8.5%	-39.4%	-10.7%	10.1%	10.4%

年齢区分別 搬送人員及び前年比（人）

	合計	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者
令和4年	3,573	16	193	104	1,213	2,047
令和3年	3,266	14	151	100	1,135	1,866
増減数	307	2	42	4	78	181
増減比	9.4%	14.3%	27.8%	4.0%	6.9%	9.7%

傷病程度別 搬送人員及び前年比（人）

	合計	軽症	中等症	重症	死亡	その他
令和4年	3,573	2,012	1,280	254	27	0
令和3年	3,266	1,818	1,205	213	30	0
増減数	307	194	75	41	-3	0
増減比	9.4%	10.7%	6.2%	19.2%	-10.0%	0.0%

令和4年中 搬送医療機関

医療機関名称	令和4年	令和3年	前年比	割合
戸田中央総合病院（戸田市）	940	772	168	26.3%
蕨市立病院（蕨市）	439	320	119	12.3%
済生会川口総合病院（川口市）	419	494	-75	11.7%
川口市立医療センター（川口市）	241	221	20	6.7%
益子病院（川口市）	194	191	3	5.4%
中島病院（戸田市）	191	280	-89	5.3%
かわぐち心臓呼吸器病院（川口市）	140	187	-47	3.9%
川口市立医療センター救命救急センター（川口市）	96	89	7	2.7%
公平病院（戸田市）	89	65	24	2.5%
埼玉協同病院（川口市）	75	44	31	2.1%
安東病院（川口市）	75	54	21	2.1%
秋葉病院（さいたま市）	70	49	21	2.0%
東京北医療センター（東京都）	49	29	20	1.4%
板橋中央総合病院（東京都）	42	74	-32	1.2%
高島平中央総合病院（東京都）	39	61	-22	1.1%
自治医科大学附属さいたま医療センター（さいたま市）	29	16	13	0.8%
さいたま市民医療センター（さいたま市）	27	17	10	0.8%
川口工業総合病院（川口市）	25	23	2	0.7%
医療法人刀水会斎藤記念病院（川口市）	25	14	11	0.7%
その他	368	266	102	10.3%
合 計	3,573	3,266	307	100%

令和 5 年春季全国火災予防運動実施について

1 目的

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的とする。

2 防火標語（2022年度全国統一防火標語）

「 お出かけは マスク戸締り 火の用心 」

3 実施期間

令和5年3月1日（水）から3月7日（火）までの7日間

4 本予防運動中の重点目標

- (1) 住宅防火対策の推進
- (2) 乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進
- (3) 放火火災防止対策の推進
- (4) 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- (5) 製品火災の発生防止に向けた取組の推進
- (6) 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

5 蕨市において実施する内容

- (1) JR蕨駅と消防庁舎にて火災予防の横断幕や懸垂幕を掲げ、火災予防啓発を図る。
- (2) 本運動初日に、JR蕨駅の協力のもと、西口、東口において広報活動を実施する
- (3) 市内大型店舗等にて火災予防のポスターを掲示し、電光掲示板や放送による火災予防広報を実施する。
- (4) 防災行政無線や消防車両による火災予防広報を実施する。
- (5) 消防車両や危険物運搬車両に火災予防運動のマグネットシートを貼付し、火災予防啓発を図る。
- (6) 広報わらびや消防本部ホームページにて火災予防啓発を図る。
- (7) ケーブルテレビ（WINK）にて火災予防運動を周知する。
- (8) 住宅防火「いのちを守る10のポイント」を活用し広報を実施する。

住宅防火 いのちを守る 10のポイント

— 4つの習慣・6つの対策 —

4つの習慣

1. 寝たばこは絶対にしない、させない。
2. ストープの周りに燃えやすいものを置かない。
3. こんろを使うときは火のそばを離れない。
4. コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く。

6つの対策

1. 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は**安全装置**の付いた機器を使用する。
2. 火災の早期発見のために、**住宅用火災警報器**を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
3. 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、**防災品**を使用する。
4. 火災を小さいうちに消すために、**消火器等**を設置し、使い方を確認しておく。
5. お年寄りや身体の不自由な人は、**避難経路と避難方法**を常に確保し、備えておく。
6. 防火防煙訓練を含め、**消防団**や**近所**と協力体制を構築する。

